

南永田団地（永田みなみ台地区）の 「これまで」と「これから」

（南永田団地（永田みなみ台地区）再生ビジョン）



令和4年3月

南永田団地再生ビジョン検討会

< 目次 >

1. はじめに
2. 南永田団地（永田みなみ台地区）の概要
3. 南永田団地（永田みなみ台地区）の課題
 - (1) 入居開始から 50 年で生じた変化
 - (2) 顕在化する課題
 - (3) 課題のサイクル
4. 地域で行われている取組
 - (1) NPO 法人ほっとサライ、サロンほっとサライについて
 - (2) 地域における活動団体等による取組等
 - (3) 各団体が連携して実施している取組等
 - (4) これまでの取組について
5. 南永田団地（永田みなみ台地区）の「これから」

対象区域－永田みなみ台地区



1. はじめに

- ・南永田団地（永田みなみ台地区）では、築約 50 年を前に住民の少子高齢化等に伴う様々な課題が顕在化しています。こうした中、地域では、住民主体の様々活動団体によって、団地再生に向けた多くの取組が行われています。
- ・この活動を将来につなげていくため、これまでの活動を整理するとともに、今後も各団体が互いに協力して活動を継続していくための指針として、「南永田団地（永田みなみ台地区）団地再生ビジョン」（以下「団地再生ビジョン」という。）を取り纏めました。
- ・団地再生ビジョンは、団地の将来像だけでなく、現在行われているそれぞれの活動に込められた想いを共有するとともに、新たな住まい手や再生の担い手を呼び込み、活動を続け、広げていくための「活動のしおり」としても活用できるよう具体的な活動を記載しました。

◆団地再生ビジョンの取り纏め

- ・団地再生ビジョンの取り纏めにあたり、令和 3 年 9 月に、「ビジョン検討会」を組織しました。
- ・ビジョン検討会は、団地内で活動を行っている団体が中心となり、横浜市建築局、南区役所、横浜市住宅供給公社が事務局を担いました。
- ・団地再生ビジョンは、各団体の日頃の活動等について、事務局が聞き取りを行い、内容を取りまとめ、「ビジョン検討会」で承認し、策定しました。

◆ビジョン検討会構成団体

	構成団体		構成団体
自治会 関係者	1 街区会長(連合会長)	NPO	NPO 法人 永田みなみ台ほっとサライ
	2 街区会長		みな整骨院
	3 街区会長		南永田郵便局
地域福祉 関係者	永田みなみ台地区社会福祉協議会	南永田 団地 商栄会	エンゼルファミリー
	南区社会福祉協議会		南永田学童クラブ「そよかぜ」
	永田地域ケアプラザ		セルモ南永田教室
小学校・ 中学校 関係者	永田台小学校	地権者	UR 都市機構
	永田中学校		
	学校・地域コーディネーター		

◆これまでのビジョン検討経緯

令和 3 年 1 月	グループインタビューの実施 ・各活動グループより団地への想いを伺いました。
令和 3 年 3 月	「団地再生ビジョン検討準備会」の開催 ・団地の現況とビジョンの考え方を共有しました。
令和 3 年 9 月 9 日	「第 1 回 団地再生ビジョン検討会」の開催 ・「団地再生ビジョン」作成の進め方を確認しました。
令和 3 年 10～12 月	グループヒアリングの実施 ・各活動グループのこれまでの活動・理念等を伺いました。
令和 4 年 1 月 13 日	「第 2 回 団地再生ビジョン検討会」 ・作成した「団地再生ビジョン」(案)について意見交換を行いました。
令和 4 年 3 月 10 日	「第 3 回 団地再生ビジョン検討会」 ・「団地再生ビジョン」が承認され、完成しました。

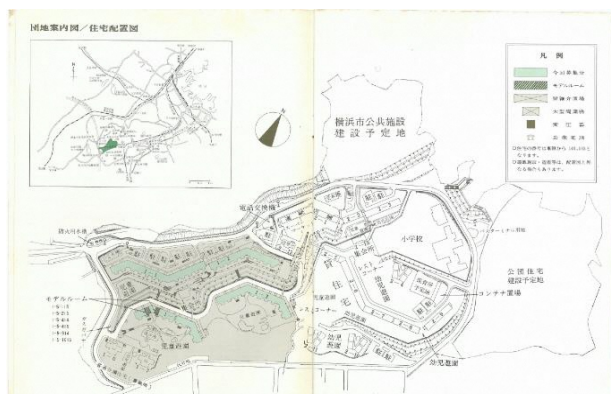
2. 南永田団地（永田みなみ台地区）の概要

南永田団地（永田みなみ台地区）のこれまで ～ 住みよい住環境 ～

① 昭和40年代から計画的に整備された住宅地（沿革、団地現況）

- ・1970（昭和45）年に、UR（当時の日本住宅公団）が、丘陵地の地形を生かしながら中高層住宅と小学校や公園などの公共施設を計画的に配置して整備した団地です。
- ・昭和49年入居開始の1街区（分譲）と2街区（賃貸）、昭和53年入居開始の3街区（賃貸）、合わせて2,460戸の団地です。・屋外から2階部分へ平面アクセスができたり、棟と棟をつなぐ通路があったり、高低差を活かした立体的な動線が形成されており、段差なく団地内を移動できますが、車椅子には少し傾斜が厳しい箇所もあります。
- ・団地内1街区・2街区の中央付近に南永田団地商店街が形成されており、スーパーマーケットや郵便局、診療所、整骨院、学童クラブ等が営業されています。

団地名	南永田住宅 (1街区)	南永田 (2街区)	南永田第二 (3街区)	合計
所在地	永田みなみ台1	永田みなみ台2	永田みなみ台3	
建設年	昭和45~46年	昭和46年	昭和49年	
入居開始	昭和49年度	昭和49年度	昭和53年度	
管理者	南永田住宅管理組合	UR都市機構		
分譲・賃貸	分譲	賃貸		
戸数	1035戸	1215戸	210戸	2460戸
棟数	7棟	13棟	8棟	28棟
階数	10・11・14階	9・11・12・14階	5階	



分譲当時（S49）のパフレット（連合町内会長提供）



建築工事中の写真① 2-5号棟（地域住民提供）



建築工事中の写真② 奥が1-1号棟（地域住民提供）



土地の高低差を活かした建物配置



敷地内通路から中層階へのアプローチ

② 緑豊かな環境

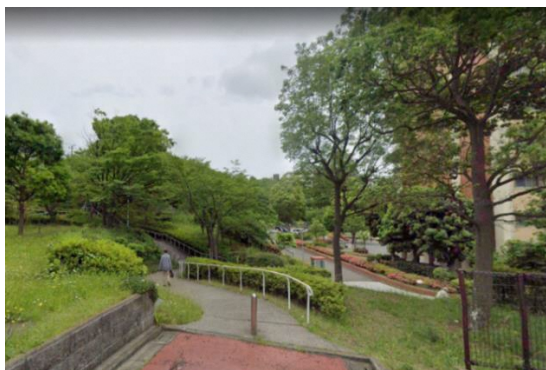
- ・「児童遊園」「幼児遊園」などの共有空間が、団地内の各所に地形を生かして配置されており、野生のリスが生息するなど、緑豊かな環境を形成しています。
- ・春には桜が満開となり、夏には団地内でのプール利用、秋にはどんぐり拾いなど四季の移り変わりを感じることできる環境です。



春に咲き誇る桜



児童遊園内の池



四季を感じられる緑道



子ども向けの屋外プール/(2018年7月号タウンニュースより)

③ 交通アクセス

- ・南永田団地内には、「南永田団地」「南永田中央」「南永田入口」の3つのバス停留所があり、京急線 弘明寺駅付近を經由する神奈川中央交通のバス路線が運行されています。



南永田団地付近のバス路線図 (神奈川中央交通 HP より)

④ 生活利便施設（地域資源）の立地

- ・ 区内には子ども・教育関連施設が多く、地区センターや地域ケアプラザも団地中心部から直線距離で400m程度と徒歩圏に立地しています。
- ・ 団地内には、商店街が整備されています。かつては生鮮食品等を扱う店舗が多く入居しており、現在はサービス、医療・福祉施設が多く入居しています。

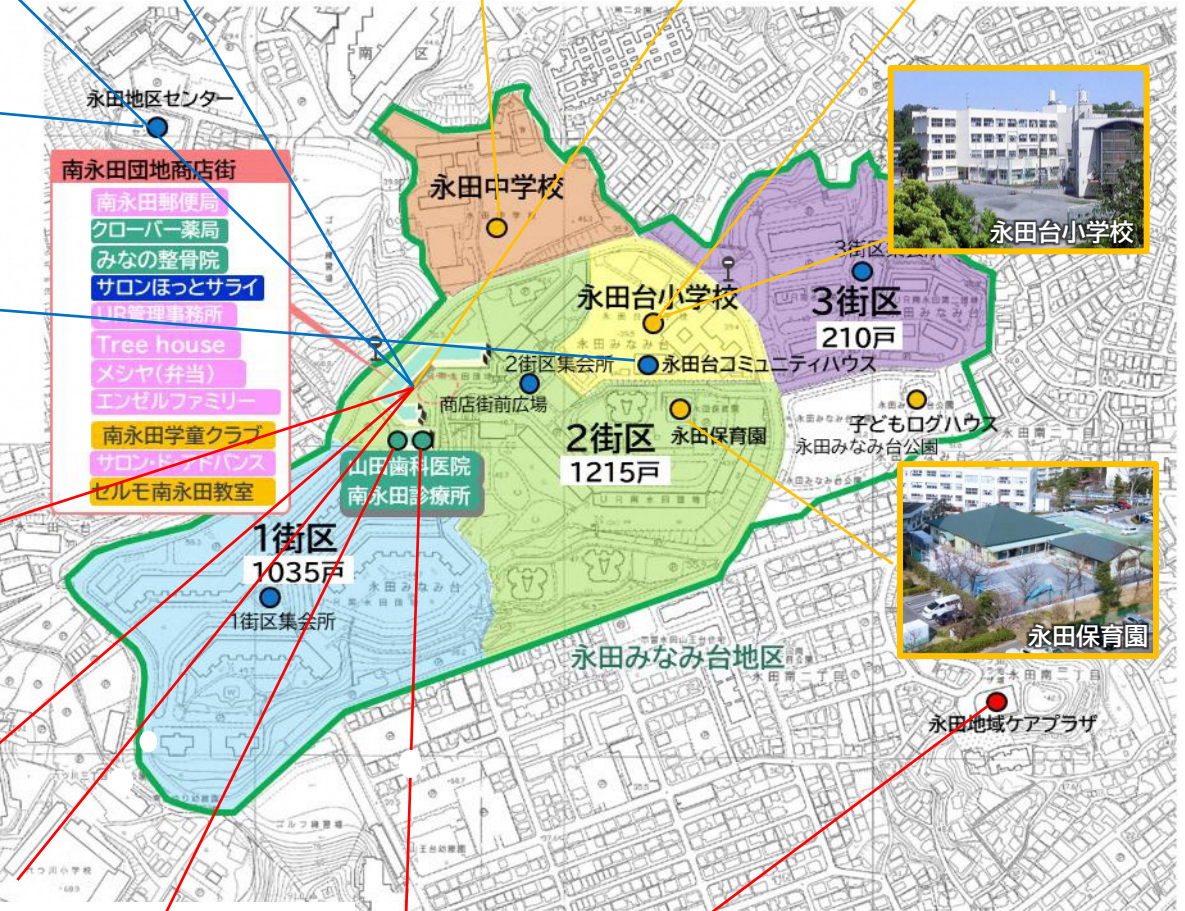
<商業・サービス>



<子育て・教育>



<活動拠点>



<医療・福祉サービス>



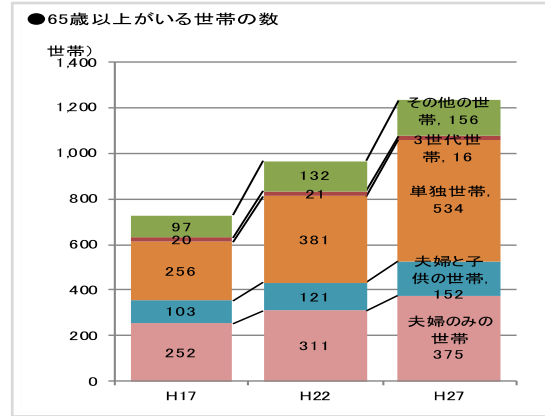
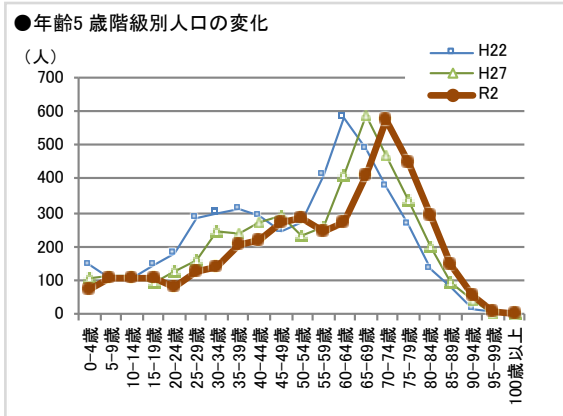
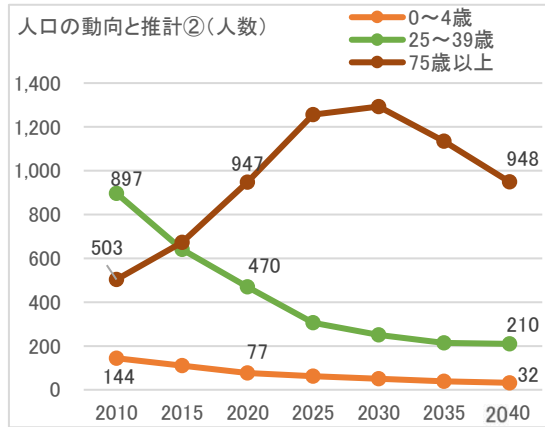
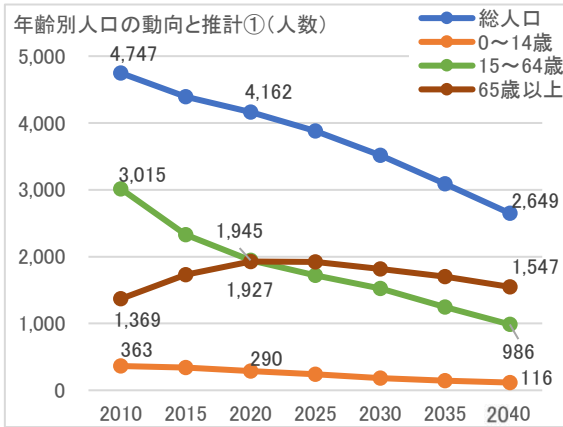
3. 南永田団地（永田みなみ台地区）の課題

(1) 入居開始から約50年で生じた変化

人口構成の変化・人口減、少子高齢化

・人口減少と高齢化が進んでおり、75歳以上の後期高齢者の増加は2030年まで続くと推計されており、単身高齢者の割合も増加傾向にあります。

〈永田みなみ台地区〉



〈各種グラフ 出典：横浜市 HP 南区地区別データ集より作成〉

進む建物の築年経過、住まいのニーズの変化

・後約50年が経過し、建物や外構の経年による劣化により、1街区ではグレードアップ改修工事が実施されています。(2021年現在、3回目の大規模修繕工事を実施中) 住民からは、時代の変化に伴い、団地の居住環境が若い世代のニーズに合うよう改善していくべきではとの意見があります。

2003年の2回目の大規模修繕の実施状況（「大規模修繕工事新聞」掲載記事より）

・第1回大規模修繕工事は躯体補修や鉄部塗装など、経年劣化した箇所を直そうというだけだったが、2回目では住民の高齢化に対応したバリアフリー化、団地活性化を目指して若い人にも魅力ある施設へのグレードアップ化を積極的に取り込んだ。



・グレードアップ工事は、まず各棟の玄関である1階ピロティ部分の改修、若い人が入居を決める際の印象が良くなるよう、きれいな意匠に模様替えし、メールボックスも新設した。各戸の玄関回りもアルミ製に変更。見栄えが良くなるのと同時に塗り替えなどの修繕の必要がなくなった。

エントランスホール



各戸玄関回り



(2) 顕在化する課題

①進む人口減少、高齢化

- ・人口減少と高齢化が進んでおり、75歳以上の後期高齢者の増加は2030年まで続くと推計されています。
- ・単身高齢者の割合も増加傾向にあります。

②活力・賑わいの低下

団地内の人流・人出

- ・以前に比べ団地内の人出が減り、住民の交流や人付き合いの減少にもつながっています。

街の賑わい・活力の低下

- ・街の賑わい・活力が低下し、ご近所づきあいや住民同士の関係が希薄化し、高齢者の孤立、引きこもりや孤独死の発生につながっています。

地域活動の継続性

- ・高齢夫婦・単身世帯が増え、自治会等の活動の担い手が不足しています。また、子どもの減少で子ども会が解散しました。

③生活利便の低下、管理不全の発生

交通アクセス

- ・バスは主に弘明寺駅を経由する1路線になり、利用者の減少で減便が発生しています。
- ・徒歩では弘明寺駅から30分程度かかる上、高低差が大きく、高齢化で住民の徒歩圏が縮小しています。

日常の買い物環境

- ・2街区の商店街は、かつては生鮮食品店や飲食店などが揃っていましたが、現在はスーパーマーケットの他サービス、医療・福祉関連が多く、日用品の買い物は、団地外の利用が多くなっています。

住環境の維持

- ・住棟の管理体制の弱体化や環境整備活動の低迷等、良好な住環境の維持が以前に比べ難しくなっています。今後、若い世代の生活ニーズに対応したりリニューアルが難しくなる懸念があります。

④魅力・資産価値の低下

- ・築年数の経過や街の活力の低下により、各住戸の市場価値の相対的な低下につながっています。

⑤空き住戸増加の懸念

- ・魅力・資産価値の低下により空き住戸が増加し、住環境の維持がさらに困難になることが懸念されます。

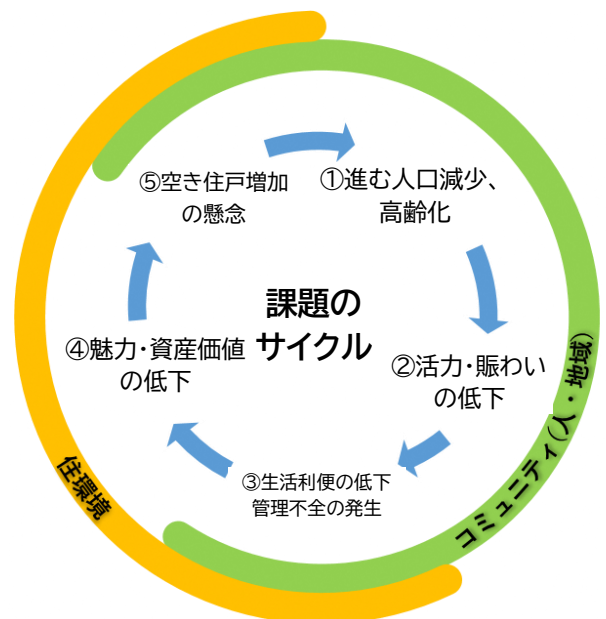
コミュニティ(人・地域)

住環境

(3) 課題のサイクル

南永田団地(永田みなみ台地区)における人口構成の変化や建物の築年経過により、コミュニティの活力や生活利便性が団地整備時に比べ低下しています。こうした状況は、住宅地としての魅力を低下させ、資産価値の低下や空き住戸増加、ひいては更なる人口減少等につながる懸念があります。

個々の課題はつながっており、このサイクルを断ち切るためには、多様な取組を行い、個別の課題それぞれにアプローチしていくことが重要になります。



4. 地域で始まっている取組等

南永田団地（永田みなみ台地区）では、前章で示した課題に対し、これまで、自治会、地区社協永田地域ケアプラザ、学校等により、住民の交流・親睦、福祉・保健の向上、教育等、各団体等の役割に応じ、それぞれに取組が行われています。また、平成30年に、団地住民によって「NPO法人永田みなみ台 ほっとサライ」（以下「NPO法人ほっとサライ」という。）が設立され、多世代交流の促進、子どもの健全育成、高齢者の孤立防止・見守りを目的に、幅の広い活動を展開しています。

<地域で活動している主な団体>

ONPO 法人ほっとサライ

多世代交流促進、子どもの健全育成、高齢者の孤立防止・見守り等を目的に、多世代交流拠点「サロンほっとサライ」の運営や、地域の交流イベント「つながり祭」の開催など、様々な活動を行っています。

○永田みなみ台連合自治会（南永田団地1街区、2街区、3街区、ダイアパレス永田町）

設立21年を迎える永田みなみ台連合自治会は、南永田団地の1～3街区と、隣接するダイアパレス永田町の4自治会で構成され、現在およそ1,400世帯が加入しています。「顔の見える関係づくり」を目指し活動しており、団結力の強い連合自治会です。

○永田みなみ台地区社会福祉協議会

永田みなみ台連合区域を対象エリアとする地区社会福祉協議会です。自治会や福祉団体、社会福祉施設、民生委員・児童委員、地域住民等により構成され、「人と人とがふれあう街づくり」をテーマに、子育てや福祉、介護といった分野における活動を行っています。

○永田地域ケアプラザ

南永田団地（永田みなみ台地区）を担当する地域ケアプラザです。「笑顔で生活できる地域作りに貢献します」を基本理念に、主に「地域活動・交流部門」「地域包括支援センター」「生活支援体制整備」「居宅介護支援」「通所介護」の5つの機能を持った施設として、運営されています。

○小学校・中学校関係者

南永田団地（永田みなみ台地区）を学区に含む、公立の小中学校は、市立永田台小学校、市立永田中学校の2校です。それぞれ、授業やクラブ活動等で、地域と協力・連携した活動を行っています。両校には、地域と学校をつなぐ学校・地域コーディネーターが配置されており、地域と強い協力関係を構築しています。特に、永田台小学校はユネスコスクール（詳細はP.19を参照）にも認定されているほか、PTA+αの活動として「学校応援隊」が組織されるなど、充実した体制が構築されています。

○南永田団地商栄会

南永田団地2街区2-1号棟の1～2階にはテナントスペースがあり、入居する事業者により商店街が形成されています。南永田団地商栄会は、商店街事業者にて構成する団体で、構成業種・業態は、医療・福祉、食物販・飲食、子育て・生活等で、団地内の生活インフラの一旦を担う存在となっています。

○UR 都市機構

URは、昭和45～49年に南永田団地を整備した独立行政法人（独立行政法人都市再生機構法（平成15年）による）です。現在も賃貸である2、3街区の管理を行っており、また、南永田団地の地域医療福祉拠点化に向けた取組を進めており、建物管理におけるハード面の取組のみならず、人と人の交流を生むようなソフト面の取組を行っています。

○南永田住宅管理組合

1街区に立地する南永田住宅の区分所有者で構成する、1街区の敷地及び団地建物の管理・運営組織です。管理組合の活動のおかげで、敷地内の植栽や団地建物がきれいな状態で維持されています。

(1) NPO 法人ほっとサライ、サロンほっとサライについて

ア NPO 法人永田みなみ台ほっとサライの設立

南永田団地（永田みなみ台地区）では、平成 20 年代中頃から、高齢者の孤独死や認知症による徘徊といった高齢化に伴う問題が徐々に顕在化してきました。また、事業者の撤退による団地中心部の商店街の空き店舗化が進み、交流機会の減少による住民の孤立化や賑わいの低下も大きな課題となっていました。

そこで、平成 27 年度に、住民が地域の課題解決について学ぶ「寺子屋みなみ」を区役所等と協力して実施しました。まち歩きワークショップや勉強会を通じて、地域の課題の整理を行い、地域課題の解決のため、「空き店舗の活用」や「団地の賑わいづくり」に取り組む方向性を整理しました。

寺子屋みなみには、自治会町内会の役員のほか、団地に対する課題意識を持つ多くの住民が参加しており、この参加者を中心に、平成 28 年 3 月に、「永田みなみ台まちづくり運営委員会」が立ち上げられ、「空き店舗の活用」「団地の賑わいづくり」に向けた具体的な検討が開始されました。

そして、平成 30 年に、空き店舗を活用した地域の交流拠点の開所にむけ、「NPO 法人ほっとサライ」を設立しました。

NPO 法人ほっとサライは、寺子屋みなみの参加者を中心に構成され、多世代の交流を促進し、子どもたちの健全育成、高齢者の孤立化防止を目的に、多世代交流拠点「サロンほっとサライ」の運営や、地域の交流イベント「つながり祭」の開催など、様々な活動を行っています。

<参考>

NPO 法人 永田みなみ台ほっとサライ 定款

第 3 条（目的）

この法人は、地域住民に対して、多世代の交流を促進し、子どもたちの健全育成、高齢者の孤立化防止や見守り拠点に関する事業を行い、地域住民が安全で安心して生活できる環境づくりに寄与することを目的とする

第 5 条（事業）

この法人は、第 3 条の目的を達成するため、次の特定非営利活動にかかる事業を行う。

- (1) 安全・安心のまち拠点づくり事業
- (2) 地域の活性化事業
- (3) 多世代交流の場事業

イ サロン ほっとサライの開所

平成 28 年 3 月に「まちづくり運営委員会」が立ち上げられ、地域による「団地の賑わいづくりのための、空き店舗を活用した見守り・交流拠点づくり」に向けた検討が本格的に始まりました。横浜市建築局の「マンション・団地再生コーディネーター派遣事業」を活用するなど、行政とも協力しながら、検討を重ねる中で、具体的手法として、横浜市の補助事業「介護予防交流拠点整備事業」※を活用した拠点整備を目指していくこととなりました。

平成 29 年度には、横浜国立大学と連携し、学生のアイデアを取り入れながら拠点の空間デザイン等を検討するとともに、取組や拠点の活用について検討を行い、平成 30 年 2 月に「介護予防交流拠点整備事業」を申請しました。

申請は、平成 30 年夏に採択され、その後、区役所や建築局とも協力しながら、設計や内装工事等ハード面の準備を進めるとともに、サロン運営の資金計画、運営体制の検討、ボランティアの募集、カフェで提供するメニューの検討、備品の調達、地域への P R 等、ソフト面での検討も並行して進め、寺子屋みなみでの検討開始から 4 年後の平成 31 年 4 月、団地内の商店街にサロンほっとサライが開所しました。

サロンほっとサライは、NPO 法人ほっとサライが運営を行い、多世代交流促進、子どもの健全育成、高齢者の孤立防止・見守り等を目的として、法人が実施する様々な活動の拠点として活用されているほか、ランチ・カフェの営業を行っており、地域住民の憩いの場、交流の場となっています。ランチ・カフェは約 30 名のボランティアによって、運営されています。

※「介護予防交流拠点整備事業」

拠点整備にかかる費用が助成される横浜市の補助事業。介護予防・生活支援につながる活動の推進のため高齢者が集うサロン等の施設整備費等を対象としている。



拠点開所に向けた検討



工事中的様子



メニュー開発の様子



開業日決定



ボランティアスタッフ



「つながり祭」の様子

< NPO 法人の設立、サロン開所までの経緯 >

平成 27 (2015) 年度	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決を住民や行政と一緒に取り組んでいく「寺子屋みなみ」を実施。「空き店舗の活用」「団地の賑わいを作りたい」等をテーマにワークショップの開催や他団地の先行事例の視察を実施 「寺子屋みなみ」の活動を継続していくため、「永田みなみ台まちづくり準備委員会」、その後、「永田みなみ台まちづくり運営委員会」を結成。
平成 28 (2016) 年度	<ul style="list-style-type: none"> 「永田みなみ台まちづくり運営委員会」で、団地内での拠点づくりに向けた検討がスタート（横浜市の介護予防交流拠点整備事業の活用を視野に検討を進める） 団地の賑わいと仲間づくりを目的に、「つながり祭」を初めて開催。
平成 29 (2017) 年度	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業の活用、拠点の賃貸契約等も見据え、NPO 法人設立に向けた準備を開始。平成 30 年 1 月に NPO 法人 ほっとサライ設立 横浜国立大学と連携し、「地域全体に広がる福祉（多世代共生）のまちづくりデザイン」をテーマに学生のアイデアを取り入れながら拠点の空間デザイン等を検討。 介護予防交流拠点整備事業補助金申請
平成 30 (2018) 年度	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防交流拠点整備事業補助金を活用し、拠点工事を実施。
平成 31 (2019) 年度	<ul style="list-style-type: none"> サロンほっとサライを 4 月に開所し、内覧会やオープン記念イベントを開催。

ウ NPO 法人ほっとサライが実施している活動

凡例：活動を目的別に 5 つのキーワードに分けて表示しています。

見守り・多世代交流

にぎわいとつながり

生活サポート

住みよい環境づくり

魅力の発信

■つながり祭の開催（H28～）

見守り・多世代交流

2 街区 1 号棟の商店街前の広場で、「赤ちゃんからお年寄りまでみんな集まれ！」をキャッチフレーズに、2 月に一度、開催しています。NPO 法人ほっとサライを中心に、学童クラブ、UR、永田台小学校応援隊のおやじ&フェス部等が参加し、バザーや模擬店、昔遊び、フード販売等を行っており、地域の認知度も高く、多世代交流の場として賑わいを見せています。新型コロナウイルスの感染拡大等による中止はありましたが、平成 28 年 4 月の第 1 回目の開催以降継続して開催されており、地域になくてはならないイベントとなっています。

にぎわいとつながり

■地域清掃活動

にぎわいとつながり

つながり祭当日の朝に、団地住民と小学生による地域のごみ拾い清掃活動を実施しています。毎回 30 名以上の子どもが参加します。子どもたちの「自分の住んでいる地域をきれいにする」気持ちを育てています。

住みよい環境づくり

■カフェの営業（H31～）

見守り・
多世代交流

サロンほっとサライでは、通常、日中の時間帯にランチ・カフェ営業を実施しています（日曜・祝日を除く 11 時～15 時）。軽食やドリンクの提供を行っており、火・金曜はランチ提供、木曜は季節のうどんを提供しています。団地住民が、おしゃべりを楽しみに来店するなど、高齢者の居場所のみならず、団地住民の交流の場となっています。

にぎわいと
つながり

また、「障がい者支援」の一環として、地域活動支援センター「めざみ」や「ぼれぼれ」の作業所製品（菓子等）も販売しています。

■多彩な催しの開催

見守り・
多世代交流

ランチ・カフェ営業終了後に店内で懐かしの映画を上映する「映画お楽しみ会」や、（女性に比較して地域にあまり出てこない傾向の）男性をメインターゲットとした「男の料理教室」など、拠点を活用した多彩な催しを開催しています。

にぎわいと
つながり

■レンタルボックスの設置

見守り・
多世代交流

サロンほっとサライの店舗内に、利用者への貸出用レンタルボックスを設置しています。団地住民の手作りの作品等を展示・販売し、住民同士のつながり醸成や、地域活動参加のきっかけとなることを目指しています。

にぎわいと
つながり

■小学生等の作品展示

にぎわいと
つながり

サロンほっとサライの店内で、小学生の作成した、防犯ポスター(11 月)や書初め(1 月)等を展示するなど、小学生等の活動発表の場として利用されています。

魅力の
発信

■情報発信

にぎわいと
つながり

HPで、サロンほっとサライのランチ・カフェメニューの紹介や、つながり祭のスケジュールやイベント内容などの情報発信を行っています。また、タウンニュースにも度々掲載されるなど、団地内外に向けて、活動を発信しています。

魅力の
発信



ランチ営業の様子



レンタル BOX の設置



メニュー看板



多国籍料理、防犯ポスター設置



小中学生によるウィンドウアート



赤い羽根共同募金箱の設置

(2) 地域における活動団体等による取組等

ア 永田みなみ台連合自治会が中心となっている活動等

■ 連合自治会行事（ヨコハマみなみ夏祭り、ラジオ体操、餅つき等）＜自治会＞

見守り・
多世代交流

にぎわいと
つながり

ヨコハマみなみ夏まつり（8月）、ラジオ体操（7月）、新春もちつき大会（1月）等の行事を毎年実施しています。連合自治会が中心となり、各自治会、学校等、様々な団体が協力して実施し、住民の交流・親睦を深めています。

・ヨコハマみなみ夏まつり

各団体や企業による模擬店・ブースが設置され、永田台小学校や永田中学校の生徒によるステージ発表、お神輿や打ち上げ花火が行われるなど、盛大に実施されます。

・ラジオ体操

夏休みに合わせ毎年実施しています。期間終了後もスポーツ推進委員が中心となり、有志で毎朝体操を続けており、健康維持はもとより、住民の交流に一役買っています。

・もちつき大会

第1回開催から約40年間続いており、300人以上の住民が参加します。永田中学校の生徒・先生も運営に参画します。餅つき以外に太鼓の演奏等も行われ、賑わいます。

■ 拠点防災訓練＜地域防災拠点運営委員会＞

住みよい
環境づくり

南永田団地（永田みなみ台地区）は、全体が、永田台小学校を地域防災拠点とするエリアに指定されています。永田台小学校は、団地内に立地しており、日頃の関係性も踏まえ、中身の濃い拠点防災訓練が実施されています。毎年11月に開催され、避難誘導、初期消火、発電機の取り扱い、炊き出し、簡易テント組立等、災害時の拠点立ち上げ・運営のための訓練を実施しています。

■ 異世代交流サロン「あじさいの会」＜自治会＞

見守り・
多世代交流

にぎわいと
つながり

既存のイベント等に参加しにくい男性や新住民とのこの見える関係づくりや地域活動への参加を目指し、交流会を行っています。コンサート等を行い、誰でも気軽に参加できる場として、実施しています。

■ キエーロの設置＜環境事業推進委員、永田台小学校、永田中学校＞

にぎわいと
つながり

住みよい
環境づくり

環境事業推進委員が資源循環局南事務所と連携し、サロンほっとサライ、永田台小学校、永田台中学校に、生ごみ処理機「キエーロ」を設置し、土壌混合法による生ごみ処理の普及啓発を行っています。サロンで出る生ごみを使った堆肥作りや、永田台小学校での土壌混合法の実践学習など、地域の環境美化を目指して取り組んでいます。

■ 地域の防犯パトロール＜青少年指導員、永田中学校、安全推進の会＞

にぎわいと
つながり

住みよい
環境づくり

毎年夏休み前に、青少年指導員が、自治会、永田中学校の教職員やPTAと協力して、夜間の地域パトロールを実施しています。また、自治会防犯担当の有志メンバー「安全推進の会」が月に1回土曜の夜に夜間パトロールを行っています。

イ 永田みなみ台地区社会福祉協議会が中心となって行っている活動

■永田みなみ台地区見守り隊<地区社協>

見守り・
多世代交流

75歳以上の人がいる世帯を対象に「見守り」「話し相手」活動を行うとともに、「買い物代行」「電球交換」「ゴミ出し」等のちょこボラ活動に取り組んでいます。平成21年に「認知症見守り隊」として発足し、現在約30人の隊員で構成し、対象を認知症に限らず活動しています。

生活
サポート

■高齢者サポート委員会による情報把握（H25～）<地区社協>

見守り・
多世代交流

緊急時対応を見据え、75歳以上の独居世帯の状況把握を行っています。登録希望者より「緊急時の連絡先」「本人の健康状態」「緊急時の入室手順」「鍵の預け先」等について聞き取りを行い、いざという時に対応できるネットワークを構築しています。自治会、民生委員・児童委員、UR等とも協力しながら活動を展開しています。

■認知症サポーター養成講座<地区社協、民生委員・児童委員>

見守り・
多世代交流

認知症サポーター養成講座を小中学校で実施しています。地域の将来を担う子どもたちに、認知症の人の気持ちや接し方等の基礎知識を学んでもらうことで、地域全体、あらゆる世代の人に認知症に対する理解を広げることを目指しています。

にぎわいと
つながり

■支えあいマップの作成<地区社協>

見守り・
多世代交流

高齢者世帯の孤立を防ぐため、地域での「つながり」の有無を把握し、図式化したマップの作成に取り組んでいます。

■高齢者サロン「おしゃべり会」<地区社協、民生委員・児童委員>

にぎわいと
つながり

1街区集会所、サロンほっとサライを会場に年8回、永田地域ケアプラザを会場に年2回、高齢者の交流サロンを開催しています。食事会やビンゴゲームのほか、ギター演奏、フォークダンスといった“地域の方の特技”のお披露目が行われるなど、参加者同士のつながりを生む場となっています。

■百人一首の集い<地区社協・NPO法人ほっとサライ>

にぎわいと
つながり

高齢者の見守りの一環で、「居場所づくり」活動を行っています。高齢者になじみの深い、百人一首を題材に、“高齢者に地域に出てきてもらう”ことを目指して実施しています。サロンほっとサライ開所後は、同サロンを会場に実施しています。

■子育てサロン「まんま」<地区社協（協力）>

にぎわいと
つながり

未就園児とその母親を対象にサロンを開催しています。子どもを遊ばせながら、お互いに子育ての悩みを話したり、情報交換したり出来る場を作ることで、地域として子育て支援を目指しています。

見守り・
多世代交流



百人一首の集い



子育てサロン「まんま」

コラム 社会福祉協議会

社会福祉協議会は、戦後間もない昭和 26 年に、民間の社会福祉活動を強化するため、全国、都道府県レベルで誕生し、ほどなく市区町村レベルにも設立された、民間の社会福祉団体です。

通称：社協と呼ばれており、社会福祉法第 109 条に「地域福祉を推進する中心的な役割を持つ組織」として位置づけられ、全国を結ぶ「公共性」と、民間組織としての「自主性」という二つの側面を併せ持っています。

神奈川県には神奈川県社会福祉協議会『県社協』、横浜市には横浜市社会福祉協議会『市社協』、市内 18 区には各区社会福祉協議会、南区は『南区社協』が組織されています。「地区社協」は、自治会・町内会、民生委員・児童委員などの地域活動団体や、ボランティア、障がい者団体や地元の施設といった地域に根付いた活動を行っている様々な団体で構成されるネットワーク組織です。このネットワーク（様々なつながり）を活かし、「住民一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり」を進めるのが、地区社協の目的です。区社協やケアプラザと地区社協が連携・協働し、「誰もが安心して、暮らせるまちづくり」を目指します。

ウ 永田地域ケアプラザが中心となって行っている活動等

■永田支えあい祭り

にぎわいと
つながり

永田地域ケアプラザを知ってもらい、地域で福祉の輪を広げていくことを目指し、年に一度、お祭りを開催しています。学校や地域の活動グループが参加し、模擬店の出店や各種催しが開催されるなど、住民と地域ケアプラザの交流が生まれています。

■地域活動交流支援

見守り・
多世代交流

にぎわいと
つながり

永田地域ケアプラザでは、地区社協等と連携し、ボランティア入門講座や、子育て支援教室等、地域福祉の活性化を目指した自主事業を実施しています。そのほかにも、囲碁将棋のクラブ活動や、親子料理教室など、地域の方や団体等の活動が永田地域ケアプラザを会場として行われ、地域の住民の交流の場となっています。

■民生委員・児童委員、UR等と連携した個別支援等

生活
サポート

地域の身近な福祉・保健の拠点として、見守り活動等により把握された支援が必要な人に対し、訪問等、個別支援をURや民生委員・児童委員と協力しながら行っています。

コラム 地域ケアプラザ ～地域の身近な福祉・保健の拠点～

地域ケアプラザは、高齢者、子ども、障がいのある人など、誰もが地域において健康で安心して暮らせるよう、地域の皆様と一緒に、様々な取組を行っている横浜市独自の施設です。「地域の身近な福祉・保健活動の拠点」として、地域住民の福祉・保健活動やネットワークづくりを支援するとともに、住民主体による支え合いのある地域づくりを支援しています。また、地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握して支援するとともに、地域の課題を明らかにして地域住民と一緒に課題解決に取り組んでいます。

<永田地域ケアプラザの基本理念>

『笑顔で生活できる地域作りに貢献します』

- ①地域での生活がよりよいものとなるように提案していきます。
- ②たくさんのいろいろな方たちから愛される施設を目指します。
- ③地域での課題には住民の方たちと協働し積極的に取り組んでいきます。

地域ケアプラザの紹介 ～誰もが利用できる施設です！～

●福祉・保健の行事やイベントの開催

- ・体操教室や福祉講座、子育てサロンなど
- 健康や生活に役立つ様々な行事やイベントの開催



●地域の皆さんの福祉・保健活動や交流の場

- ・「ボランティア」や「体操を始めたい」などの相談やコーディネート
- ・多目的ホールなどの貸出し
- 福祉・健康活動の調整や交流の場などの提供を行っています。

●福祉・保健に関する相談や支援（地域包括支援センター）

介護保険をはじめ、福祉・保健の専門相談員が無料で相談を受けています。自分自身や家族のことで不安なことがあれば、気軽にご相談ください。歩行に不安がある場合など訪問相談もできますので、あらかじめお電話ください。

コラム 南区地域福祉保健計画

○南区地域福祉保健計画とは

南区地域福祉保健計画は、区民にとって「より良いまちづくり」を進めるため、社会福祉法第107条に基づき横浜市が策定する「地域福祉保健計画」の南区版です。南区地域福祉保健計画は、区内16地区ごとに定める「地区別計画」と区全体で定める「区全体計画」で構成され、2つの計画が両輪となって、取組を推進していきます。

【地区別計画】

住民組織・ボランティア活動団体・保健活動など、地域の様々な団体や機関等で組織されている「地区社会福祉協議会」が主体となり進められています。

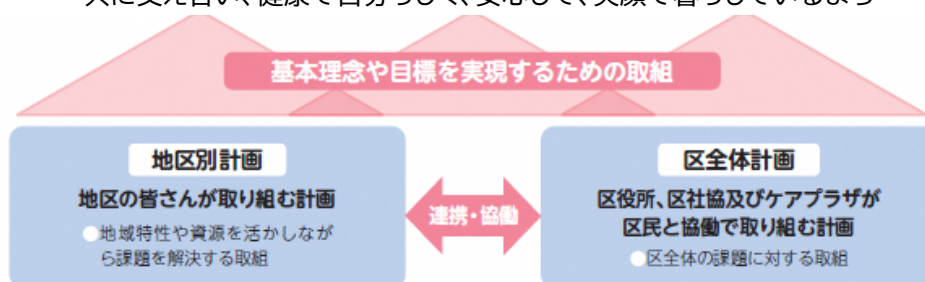
【区全体計画】

区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等が中心となり、区域全体の課題を解決していくため、また、各地区別計画の取組を支援していくための取組を策定・推進する計画です。

基本理念

区民の情(こころ)が生きるまち 南区

～ 様々な個性や価値観をもつ住民一人ひとりが人や地域とつながりを持ち、共に支え合い、健康で自分らしく、安心して、笑顔で暮らしているまち ～



○永田みなみ台地区計画

永田みなみ台地区では、地区社協を中心に、「地区別計画策定プロジェクトチーム」を立ち上げ、令和3年に計画検討を行い第4期地域福祉保健計画を策定しました。

<第4期地域福祉保健計画（令和3～7年度）永田みなみ台地区計画>

第4期計画推進のスローガン

誰もが笑顔でつながる街づくり

第4期計画推進の取組目標

誰もが出会いを大切に、交流できるまち

地域の魅力でもある豊富な自然や公園、遊歩道などの既存の場所で出会いや、サロン・イベントなどの交流活動を通じて、住民同士が「つながる」きっかけづくりを行います。

誰もが地域のさまざまな場面に参加できるまち

周辺の小学校やキッズクラブ、学童クラブ、中学校の部活動と連携し、子どもや学生、その親が地域と関わるきっかけをつくるなど、住民が気軽に参加できる企画・取組を考えていきます。

誰もが気軽に声をかけあい、見守り合えるまち

日常的に住民同士で声かけやあいさつ、見守り活動など、「このまちに住んでよかった！これからも住み続けたい！」と思える活動を行います。

エ 小学校・中学校関係者が中心となって行っている活動等

■永田台ふれあいフェスティバルの実施〈永田台小学校、PTA、自治会〉

にぎわいと
つながり

例年 12 月に永田台小学校の校庭で、団地を含めた近隣地域の交流促進・ふれあいの場として、お祭りを実施しています。手作りの段ボールフリスビーを使ったゲームやバルーンアートパフォーマンスが行われたり、つくたてのおもち、綿あめ、豚汁の販売などが行われ、多くの人で賑わいます。永田台小、永田台小 PTA、永田みなみ台・北永田・南永田山王台連合自治会の青少年指導員・スポーツ推進委員等で構成された実行委員会が実施しています。

■学校地域コーディネーターと学校保護者による活動〈永田台小学校、PTA〉

見守り・
多世代交流

住みよい
環境づくり

学校・地域コーディネーターが中心になり組織した、地域学校協働本部が、学校の芝生の草刈りや池の清掃活動、防犯パトロール等、学校の活動をサポートする取組を学校と連携・協働して実施しています。

■年度ごとの地域活動〈永田台小学校〉

にぎわいと
つながり

平成 31(令和 1)年度は、6 年生による「サロン ほっとサライ」の看板づくりや職業体験。令和 2 年度の 5 年生によるプロジェクションマッピング・永田台団地マラソン。令和 3 年度は 6 年生が「永田台体操」の考案や「階段アート（団地内の階段に絵を描く取組/幼稚園・保育園・キッズチーフなどにインタビューしながら、UR 都市機構との連携を進めている）」など、地域を盛り上げようと年度ごとに活動しています。

また、2 年生の生活科「野菜を育てよう」活動では、収穫した野菜を「サロン ほっとサライ」に届けたり、4 年生のかがやきの時間（総合的な学習の時間）では、「サロン ほっとサライ」に設置した「キエーロ（生ごみコンポスト）の活動をきっかけに、資源循環局ともつながり一緒に活動を進めたりする活動もあります。

コロナ禍の令和 3 年 8 月には、6 年生が修学旅行の代わりに「学校でのキャンプファイヤー」を実施しました。その際には、南永田台団地の皆様にも活動を応援してもらい、すいかなどの差し入れもたくさんいただきました。

■授業による地域連携〈永田中学校〉

にぎわいと
つながり

キャリア教育の一環として、「職業体験授業」を実施し、1 年生では「職業・自分調べ」、2 年生では「職業体験（区役所、学校、コンビニ、保育園等）」、3 年生では「自分の将来についての研究」をそれぞれ学んでおり、その一環で、「地域の大人へのインタビュー」等を行っています。

■委員会活動による地域連携〈永田中学校〉

にぎわいと
つながり

委員会活動の一環で、様々な地域貢献活動を行っています。永田地区センター図書室のポップ制作（図書委員会）、赤い羽根共同募金（福祉厚生委員会）、防災拠点訓練（保健委員会）などを行っています。

■部活動による地域連携<永田中学校>

にぎわいと
つながり

部活動の一環で、美術部ではサロンほっとサライの店舗入り口ガラス面へ作画（夏・冬）や南永田山王台エリアでの道の愛称の看板作成、南区ふれあいまつりで、保土ヶ谷宿の浮世絵製作・贈呈を行っています。また、吹奏楽部では、近隣マンションの住民を招待したクリスマスコンサートを実施しています。

コラム ユネスコスクール（永田台小学校/11年目）

永田台小学校は、ユネスコ憲章の理想を実現するため、ユネスコによって認定される学校である「ユネスコスクール」に指定されています。（横浜市立小学校では永田台小、幸ヶ谷小の2校のみ）

○ユネスコスクールとは？

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校であり、次のような4つの基本分野が掲げられています。

1. 地球規模の問題に対する国連システムの理解
2. 人権、民主主義の理解の促進
3. 異文化理解
4. 環境教育



○ユネスコスクールの理念

ユネスコの理念を具体的な行動に結びつけるため、ユネスコは ASPnet を 1953 年に設立しました。このネットワークに加盟するユネスコスクールは以下の活動を実施します。

- ・質の高い教育を実践し、普及させる
- ・人材育成、平和、正義を追求する
- ・世界中の青少年の教育ニーズに対応する

○ユネスコスクールの行動指針

- ・国連ミレニアム開発目標（MDG）達成に向かって活動する
- ・ユネスコの教育、科学、文化、コミュニケーション事業の実施に貢献する
- ・質の高い教育のための独創的なアプローチを試す場となる
- ・21世紀の学習の4本柱「知ることを学ぶ、為すことを学ぶ、人間として生きることを学ぶ、共に生きることを学ぶ」を教育の好事例へと実現化させる活動をします。

*ユネスコスクール HP より

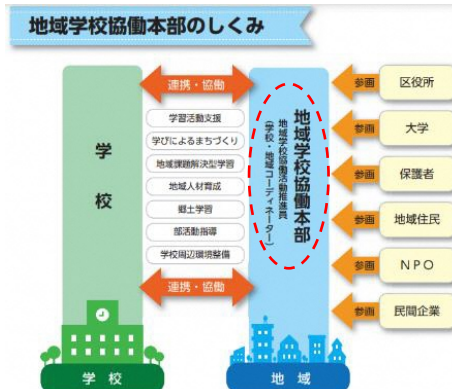
コラム 学校・地域コーディネーターの役割

○地域学校共同本部とは？

既存の地域と学校の連携体制をもとにして、**地域学校協働活動推進員（学校・地域コーディネーター）**が中心となって、緩やかなネットワークを形成し、より多くの幅広い地域の方や団体等の参画によって、終医学校協働活動を推進する体制です。

○地域学校協働活動推進員（学校・地域コーディネーター）

学校と地域の架け橋となる方で、地域や学校の状況に応じて、地域と学校が協働できる仕組みづくりを進める役割を担っています。



オ 南永田団地商栄会による活動

■季節行事の開催及びその他イベント開催時のサポート

にぎわいと
つながり

夏の納涼祭や新年・ハロウィン等の季節ごとの行事を開催しています。また、「つながり祭」への参加や小学校の「キャンプファイヤー」イベントにお菓子を提供したりと、地域行事におけるサポートを行っています。また、イベント時の座れるスペースの設置や納涼祭前の近隣への挨拶など、周囲や参加者への気配りも力を入れています。

コラム 南永田団地商栄会

南永田団地商栄会は、南永田団地第2街区の1・2階（一部別場所も有り）の店舗営業者にて構成される団体です。日常生活に必要な業種・業態が揃っており、団地内の生活を支えています。また、団地内向け配達等のサービスを行っている店舗もあります。

【医療・福祉】

- ・(2-12号棟)101：山田歯科医院（歯科）
- ・(2-12号棟)102：南永田診療所（内科、小児科、外科、皮膚科、婦人科）
- ・102：クローバー薬局（調剤薬局）
- ・103：みなを整骨院（整骨院）
- ・211：ミモザ横浜永田みなみ台（デイサービス）

【食物販・飲食】

- ・104：サロンほっとサライ（カフェ）
- ・107：メシヤ（弁当販売）
- ・108：エンゼルファミリー永田台店（スーパーマーケット）

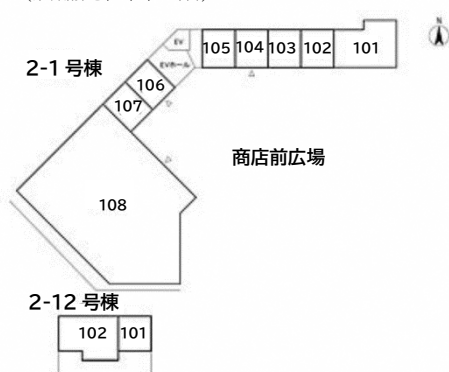
【子育て】

- ・203：南永田学童クラブ「そよかぜ」
- ・208：セルモ南永田教室（学習塾）

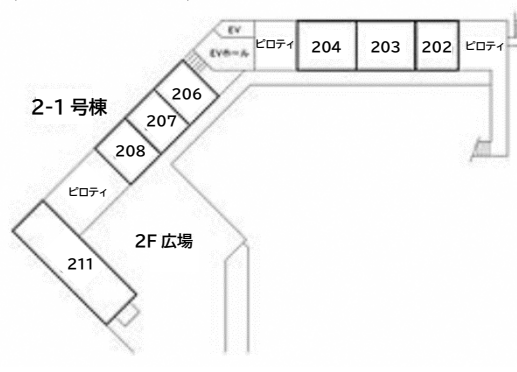
【生活】

- ・101：横浜南永田郵便局
- ・106：tree house（コインランドリー）
- ・206：サロン・ド・アドバンス（美容院）

(店舗配置図 1階)



(店舗配置図 2階)



カ UR都市機構の取組

①南永田団地における取組み

■地域医療福祉拠点化（R1～）

見守り・
多世代交流

にぎわいと
つながり

URでは、全国的な少子高齢化、大都市圏の高齢者人口の増加が進む中、国策である“地域包括ケアシステム”の構築を推進も踏まえ、「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち<ミクストコミュニティ>」を目指し、団地の「地域医療福祉拠点化」を進めています。それぞれの地域に必要な要素の導入を目指し、地方公共団体、自治会等の地域関係者と連携・協力しながら地域の状況に応じて、子育て支援施設や医療福祉施設、健康寿命サポート住宅等、様々な要素の中から必要なものを組み合わせて住宅・施設・サービス等の整備を推進していきます。

南永田団地においては、平成31年のサロンほっとサライの開所を踏まえ、令和元年6月から地域医療福祉拠点化に着手しています。

NPO法人ほっとサライの活動目的が「多世代の交流」「子どもたちの健全育成」「高齢者の孤立化防止」等であり、URの地域医療福祉拠点化の目的と合致するため、NPOの様々な活動についても協力や連携をしています。また、拠点化着手と同時に、団地とその周辺地域での三世代近居、多世代居住を推進する近居割制度の導入を行いました。

■生活支援アドバイザーの配置（R2～）

見守り・
多世代交流

生活
サポート

管理サービス事務所への生活支援アドバイザーを配置し、高齢者を孤立させず、安心して暮らし続けられるよう、各種相談対応や電話による見守り・安否確認（あんしんコール）、交流促進のためのイベントの実施等を行っています。

■管理サービス事務所の移転（R2）

住みよい
環境づくり

見守り・
多世代交流

管理サービス事務所へ生活支援アドバイザーを配置するにあたり、高齢者の生活導線への配慮から、管理サービス事務所を移転しました。移転先は、2-1号棟の商店街区画サロンほっとサライの隣の区画とし、日常的に連携しながら高齢者の見守りや住民交流をより効果的に行っています。

■2街区集会所の改修

住みよい
環境づくり

2街区の集会所について、利用状況等を踏まえた改修を実施したほか、UR若手職員有志による玄関等の改修（令和3年度）を実施しました。

■健康寿命サポート住宅の供給（R3～）

住みよい
環境づくり

健康寿命サポート住宅は、高齢者が安全に住み続けられるために、移動等に伴う転倒の防止に配慮することにより、ケガをしにくい、させない住宅とすることで、健康寿命の延伸をサポートすること目指した住宅です。主な改修内容としては、段差の解消、浴室暖房の設置、暖房便座の設置などです。

■団地の一員としての活動

にぎわいと
つながり

永田みなみ台見守り隊運営委員会・定例会や、NPO 法人ほっとサライの全体会議へ参加し、各種取組の共有を行っているほか、高齢者サポート委員会、つながり祭、国際交流イベント等に参加し、団地住民と一緒に活動を行っています。また、新たなサロン・カフェの開催や、サークル立ち上げの支援を行い、コミュニティ活動の支援を行っています。

■団地内の取組（サロンほっとサライの取組）についての情報発信

魅力の
発信

UR の HP ウェルフェア情報サイトの「取り組み・事例紹介」のページにて、NPO 法人ほっとサライの紹介をしているほか、賃貸住宅「くらしのカレッジ」のページにて、「つながり祭」をはじめとした団地活性化や多世代交流の取組を紹介しています。

その他、東日本エリアの UR 賃貸住宅にお住まいの方向けの管理報「Your らうんじ」に南永田団地の記事を掲載するなど、情報発信を行っています。

■地元小学校と連携した活動

住みよい
環境づくり

永田台小学校と商店街区をつなぐ UR が管理する屋外の階段に、コロナ禍の地域の人たちを元気づけたいとの思いから小学生が絵を描くことで、小学生にも団地を身近に感じ、親しみを持ってもらう取組みを予定しています。その他、小学生の習字や絵画作品を管理サービス事務所に掲示するなどの連携もを行っています。

サロンほっとサライ開所を契機とした連携・取組

平成 28 年度～	つながり祭開催のための空き店舗の一時使用許可
平成 29 年度	地域の交流拠点（「サロン ほっとサライ」）設置にあたり、2-1 号棟 104 号室の賃貸借契約等についての協議を開始
平成 30 年度	NPO 法人ほっとサライによる当該区画での活動開始・入居について協力を決定
平成 31 年度 （令和元年度）	・サロンほっとサライの開所（4 月） ・南永田団地を「地域医療福祉拠点の形成の取り組む団地」と位置づけ（令和元年 6 月）
令和 2 年度	・管理サービス事務所の 2-1 号棟商店街区画への移転、生活支援アドバイザーの配置

②UR の賃貸住宅等の維持管理について

UR 都市機構は、賃貸住宅の適正な管理運営を図るために 40 年以上の長きにわたって蓄積したノウハウを活用し、きめ細やかな居住者サービスで快適な住環境の維持・改善に努めています。

また、共用部分及び住戸内について、住宅の耐用の延伸を図るために必要な修繕について、修繕周期などの基準を定めて計画的に修繕を行っています。

なお、「UR 賃貸住宅ストック再生・再編方針」において、南永田団地（2 街区）、南永田第二団地（3 街区）は、「ストック再生団地」として、高経年化に対応するため、ストック再生の実施により、地域及び団地ごとの特性に応じた多様な活用を行うこととしています。多様な活用のためには、多様な世代が安心して住み続けられる環境整備、持続可能で活力ある地域・まちづくりの推進、賃貸住宅ストックの価値向上の 3 つの視点から検討していきます。

地域医療福祉拠点化

地域医療福祉拠点化の取組みでは、地域の関係者の方々と連携・協力しながら、豊かな屋外空間を備え、多くの方々が住まう団地を“地域の資源”として活用し、地域に必要な住宅・施設・サービスの整備を推進していきます。

団地を含む地域一体で、“多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち”《ミクストコミュニティ》の実現を目指します。



“多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち”を地域の

地域医療福祉拠点化の 主な3つの取組み

1 地域における 医療福祉施設等の充実の推進

団地を含む地域全体で在宅医療・看護・介護サービス等が受けられ、安心して住み続けられる環境づくりを目指しています。

その環境づくりに向けて、団地内の敷地や賃貸施設に医療・福祉施設等を誘致し、地域における医療・福祉施設等の充実を推進しています。



必要な時に

用できる環境

〈取組み例〉

医療・介護・子育て・交流機能を有した複合施設、地域包括支援センター、病院・診療所、小規模多機能住宅介護事業所、病後児保育室、相談拠点の導入





地域医療福祉拠点化の取組方針の作成を始めた段階をUR都市機構では「着手」と位置づけ、地方公共団体の同意を得た上でホームページ等で公表します。

地域医療福祉拠点化の取組方針に基づき、地域の連携体制が構築され、一定程度の取組みが実現し、地域医療福祉拠点として持続可能な状態になった段階をUR都市機構では「形成」と位置付けています。

※最新の地域医療福祉拠点化に取組み中の団地はこちらをご確認ください。

https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/welfare/kyoten/index.html

の 関係者の方々と連携・協力し、支えています。

2 高齢者等多様な世代に対応した居住環境の整備推進

高齢者の方が安全・安心に住み続けられるよう工夫した住宅や多世代のニーズに合った住宅の整備を進めています。また、共用部分のバリアフリー改修や見守りサービスの提供も進めています。

〈取組み例〉

健康寿命サポート住宅、多様な生活スタイルに対応した住宅プラン、共用部分のバリアフリー等の改修、生活支援アドバイザーの配置、既存住棟を活用したサービス付き高齢者向け住宅の整備



高齢者・若年層・子育て世帯等、多様な世代のニーズに合った住宅の供給

共用部分におけるバリアフリー化の改修や、外出しなくなる環境づくり

3 若者世帯・子育て世帯等を含むコミュニティ形成の推進

団地内の屋外空間や賃貸施設、集会所等を活用し、多世代交流の機会の創出や生活支援サービス機能の導入を進めています。

〈取組み例〉

豊かな屋外空間を活用した交流の場の整備、交流拠点の導入、交流イベントの開催、子育て支援機能の導入、生活支援サービス機能の導入



子育て支援機能・交流拠点の導入

団地の豊かな屋外空間を活用した交流の場の整備

(3) 各活動団体が連携して実施している取組等

■国際交流イベント in 南永田団地商店街前広場 (R3～) <NPO 法人ほっとサライ・地区社協・UR>

見守り・
多世代交流

南永田団地に住んでいる外国人と、日本人居住者が互いの国の生活習慣や文化を紹介しあう交流イベントを実施しています。各国の食べ物や伝統遊び、文化体験等 (ex. 抹茶、太極拳等) を実施し、普段サロンを利用しない外国籍の家族の方が参加することで、日本人住民と外国人住民とのつながりづくりのきっかけとなっています。

■「サロン ほっとサライ」のウィンドアート作成<永田中学校・NPO 法人ほっとサライ>

住みよい
環境づくり

「サロン ほっとサライ」の店舗のガラス一面に永田中学校美術部がウィンドアートを描いています。季節ごと (夏季・冬季) に新しい作品を描いており、部員の地域への作品発表の機会となるとともにサロン利用者のお楽しみにもなっています。

■永田台小学校がデザインしたエコバックの配布 (R2) <永田台小学校・NPO 法人ほっとサライ>

にぎわいと
つながり

永田台小学校は、ユネスコ憲章の理想の実現のため、ユネスコによって認定される学校「ユネスコスクール」に指定されています。R2年度は、生徒によるSDGsのメッセージが描かれたエコバックを作製しました。このエコバックを、地域のつながりを持続させる交流ツールの一つとして、お祭りや、高齢者見守りの取組の一環で行った小学生による高齢者世帯訪問の際に配布するなどし、コロナ禍で営業を休止していたサロンほっとサライに代わり、地域の多世代交流のきっかけや街の賑わいづくりを行いました。

■ボランティアによるプール運営<住民有志・永田地域ケアプラザ・永田中学校ほか>

住みよい
環境づくり

1街区にある児童プールは、担い手不足により利用が休止されていましたが、住民中心のボランティアによって、運営が再開されました。運営に当たっては、永田地域ケアプラザや永田中学校も協力しています。

にぎわいと
つながり

(4) これまでの取組について

ア 各団体の連携について

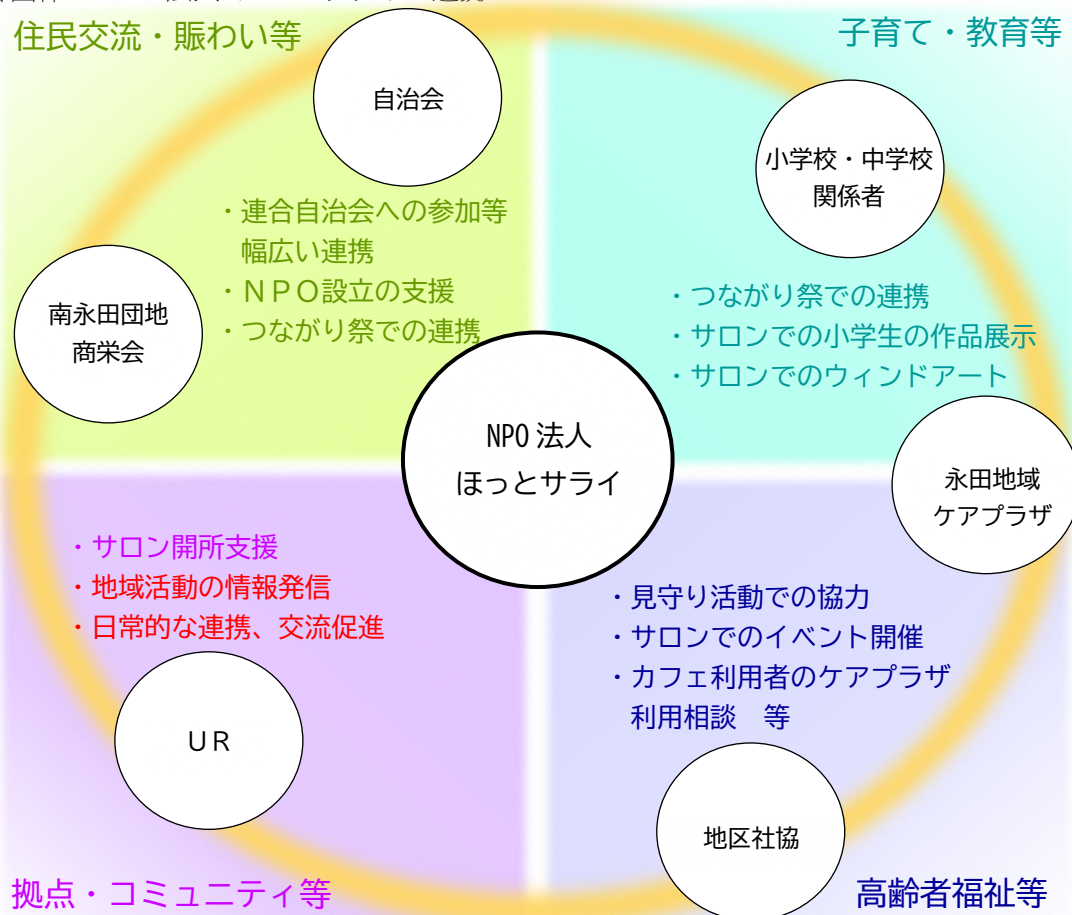
南永田団地（永田みなみ台地区）では、前章で示した高齢化等を原因として生じた様々な課題に対し、自治会、地区社協、地域ケアプラザ、学校といった、これまでこの地域で活動を行ってきた団体・施設等が、住民の交流・賑わい、子育て・教育、高齢者福祉等、それぞれ課題解決に向けた取組を行っています。

これらの取組に加え、平成30年からは、連合自治会等の協力も得ながら、NPO法人ほっとサライが設立され、新しい取組が行われています。NPO法人ほっとサライが行う取組は、多世代交流の促進、子どもの健全育成、高齢者の孤立防止・見守り等を目的としており、従来の団体等の活動テーマを包含した最も幅の広い活動と言えます。各テーマにおいて、NPO法人ほっとサライによる取組と、従来の団体等による取組が連携して行われ、より高い効果が生まれています（社協・URと連携した国際交流イベント開催、つながり祭への自治会・商店街関係者の参加等）。

また、NPO法人ほっとサライは、実際に活動の場（店舗）を持っていることが大きな特徴です。サロンは、団地住民が地域に出てくるきっかけになり、住民同士の交流の機会になっているとともに、他の活動団体との連携拠点としても機能しています（地域ケアプラザ利用相談の実施、民生委員の見守り拠点としての利用等）。こうした特徴を持つ、NPO法人ほっとサライは、地域にとって重要な要素となっています。

さらに、「サロン ほっとサライ」の賑わいは、周辺にも波及しています。開所当初は空き店舗が目立っていた商店街ですが、現在（令和4年）では1階の全区画で商店等が営業しています。

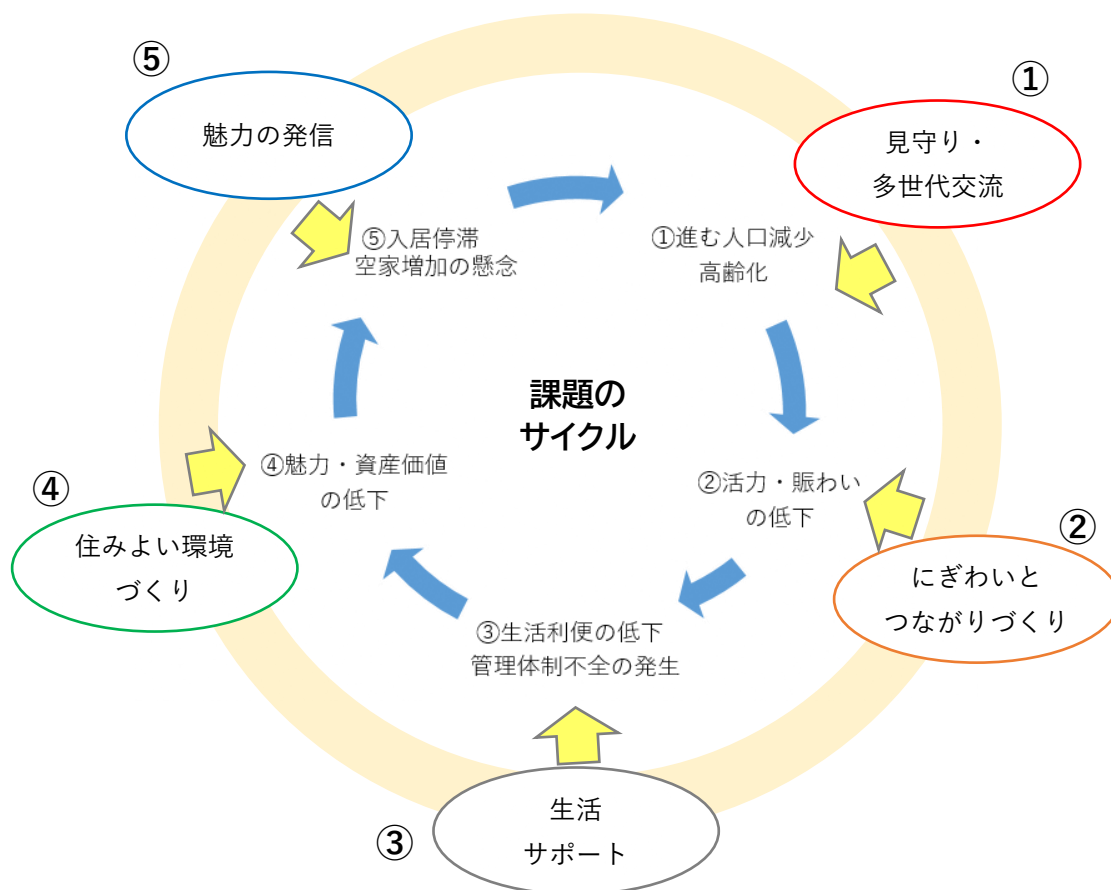
<各団体とNPO法人ほっとサライの連携>



イ 個別の活動について

各団体によって行われている取組を、目的別に5つのキーワードで整理しました。これらのキーワードは、P.7で示した「団地の課題」のそれぞれの要素に対応しており、一つ一つの取組を続けることで、課題のサイクルを断ち切り、地域の持続可能性を高めていくことにつながります。

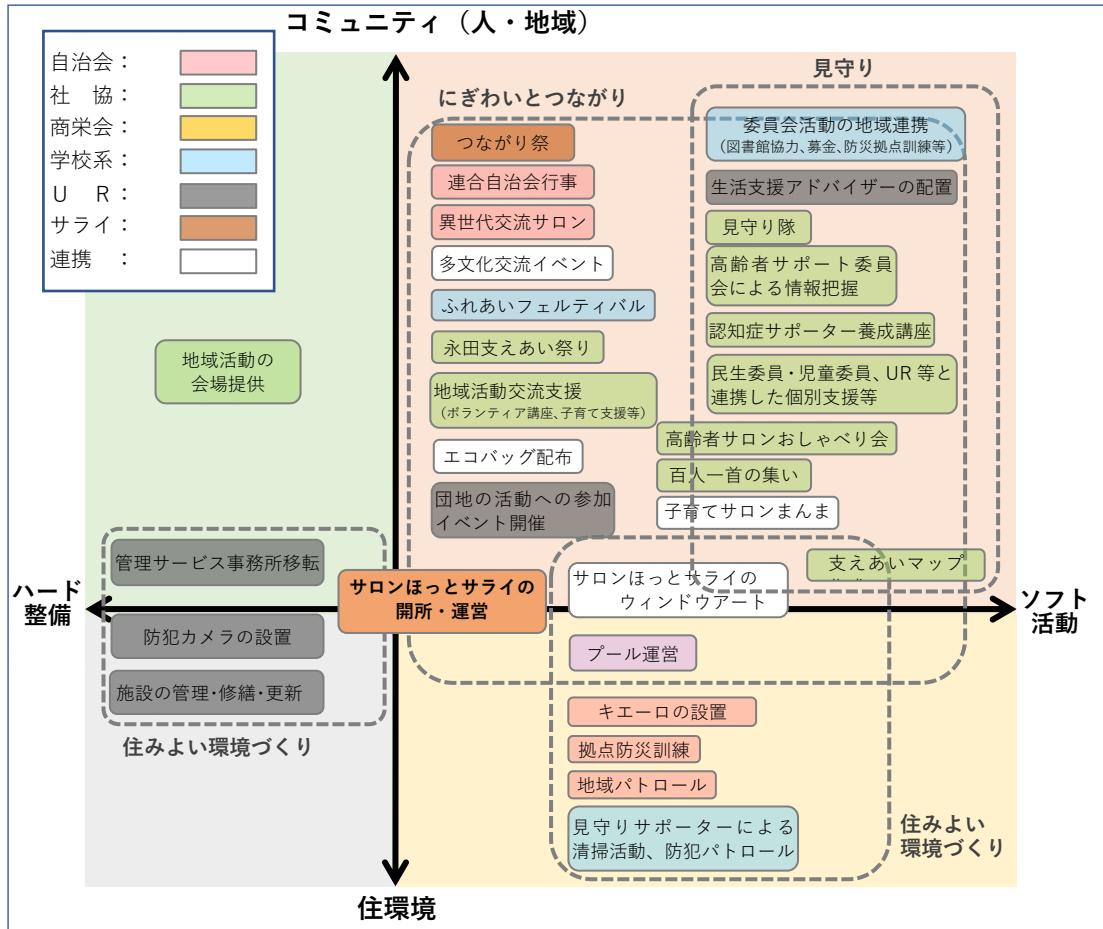
- | | | |
|---|--------------|---|
| ① | 見守り・多世代交流 | 高齢者サポート委員会による情報把握、異世代交流サロン「あじさいの会」等 |
| ② | にぎわい・つながりづくり | つながり祭、連合自治会行事、国際交流イベント in 南永田団地商店街前広場 等 |
| ③ | 生活サポート | 永田みなみ台地区見守り隊、生活支援アドバイザー 等 |
| ④ | 住みよい環境づくり | 2街区集会所の改修、中学生によるウィンドアート 等 |
| ⑤ | 魅力の発信 | URによる団地内の取組（NPO法人ほっとサライの取組）についての情報発信 等 |



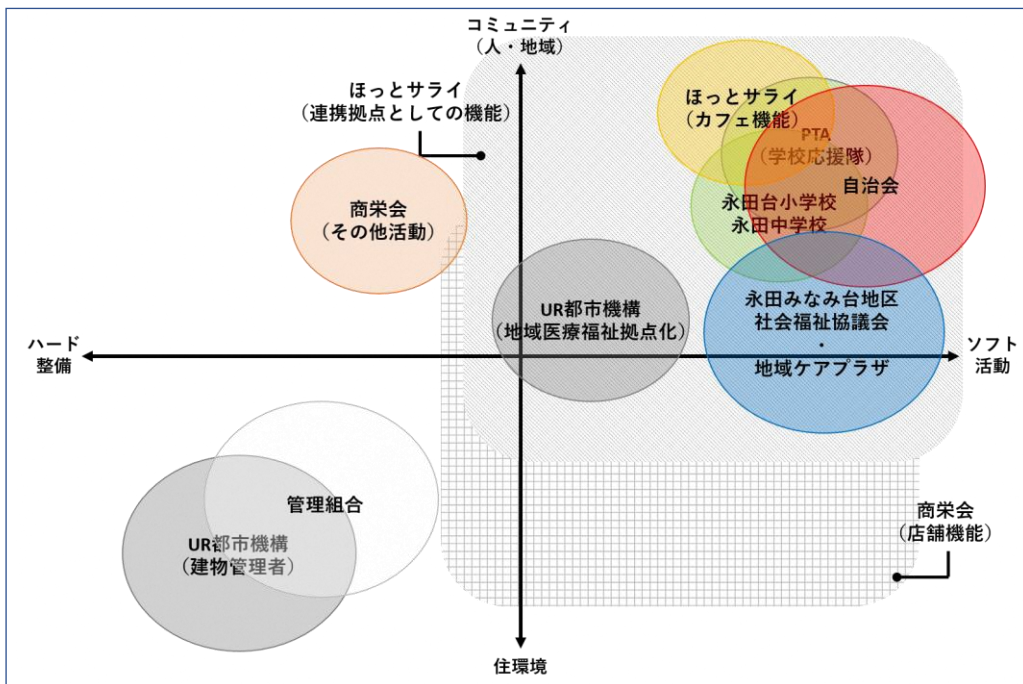
<参考>活動の整理

自治会や学校、NPO 法人ほっとサライ等は見守りや人とのつながり・交流等を主としたソフト面での活動を行っており、地区社協やUR ウェルフェア部門などは、永田地域ケアプラザやUR 施設等活用しながら住環境の活用も含めた活動の傾向があります。また、管理組合や建物管理者UR は、建物の管理や修繕等のハードの面から住みよい、安心・安全な住環境の維持・改善を行っています。

【具体的活動】



【活動団体】

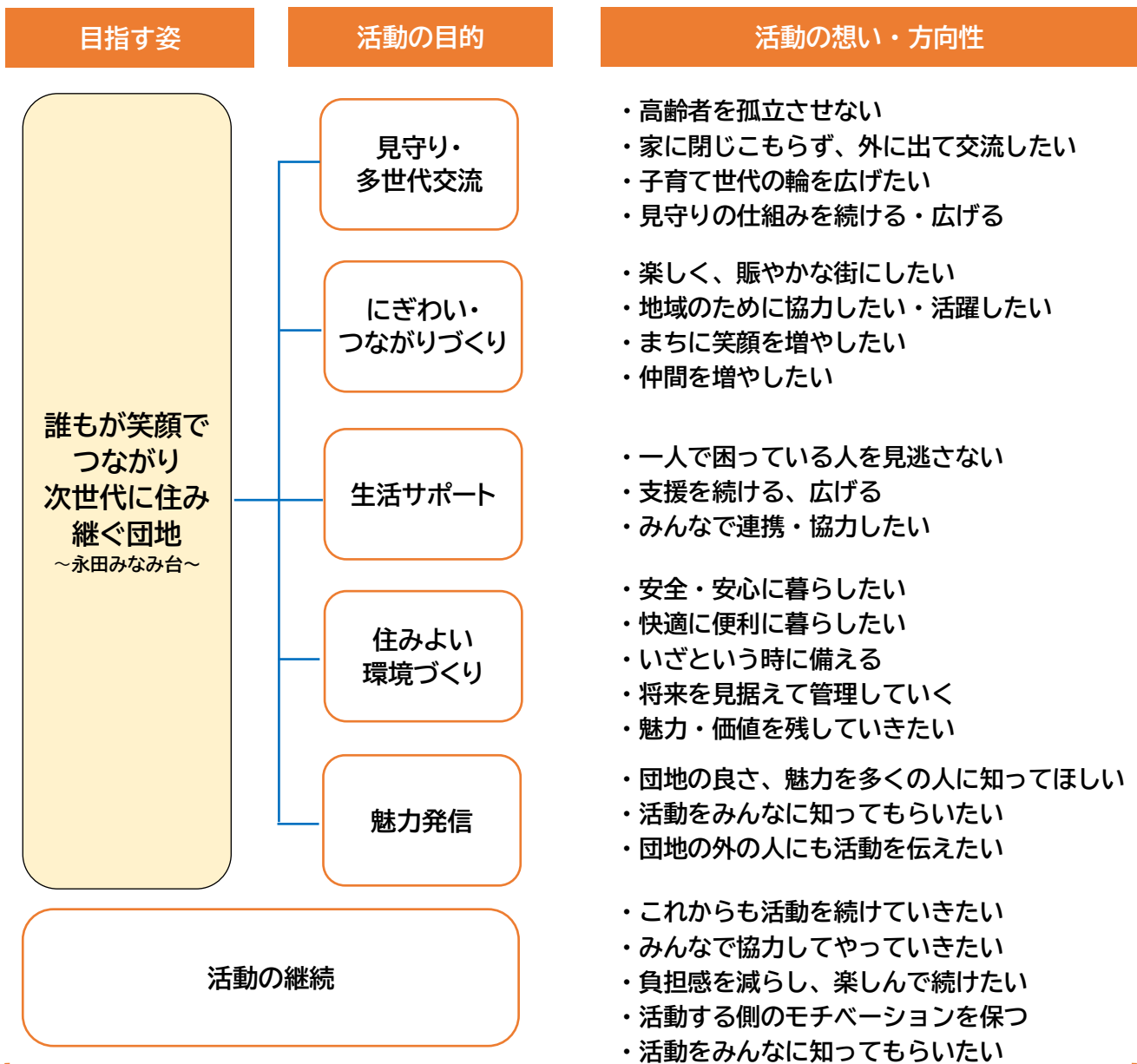


5. 南永田団地（永田みなみ台地区）のこれから

各団体が行う活動について、その思い・方向性を、活動の目的（5つのキーワード）に沿って整理しました。南永田団地（永田みなみ台）は今後10年間で、少子高齢化が一層進むことが予想されます。これからも引き続き、住民が楽しく豊かに安心して暮らしていけるよう、各団体がそれぞれの活動に込められた想いを共有し、協力しながら活動を続けていくことが重要です。

そこで、今後も各団体が互いに協力して活動を継続していくための指針として、「団地再生ビジョン」を取り纏めました。

■団地再生ビジョン



活動を支える

UR

南永田団地の地域医療福祉拠点化を、引き続き、推進していきます。

今後の活動のヒント・アイデア（活動されている皆さんの想いなど）

見守り・多世代交流

- ・未就学児だけではなく、就学児を含めた、子ども全般を対象とした取組をやってみたい。
- ・世代を超えた交流イベントを開催できるといい。
- ・子育て世代に「ここで子育てをしてよかった」と思ってもらえるような環境を作りたい。
- ・URの事務所とほっとサライが連携しており、見守りの機能が高まっている。

にぎわい・つながりづくり

- ・ほっとサライができて、街が賑やかになった。商店街を歩く人が増えた。
- ・イベントに、若い人、小さい子連れも来てくれるともっと良いと思う。
- ・それぞれの団体が頑張っているの、今後は連携の密度を濃くしていくのが重要だと思う。
- ・つながり祭では団地の外から人が来るので、その人たちを（団地の）活動に引き込みたい。
- ・季節ごとなど、定期的にイベントを実施して、賑わいを保ちたい。

生活サポート

- ・病院から退院してきた高齢者が安心して過ごすために、診療所との連携ができると良い。
- ・URが見守り隊に参加してくれるなど、連携しやすくなっている。

住みよい環境づくり

- ・団地内の商店街に愛着を持ってもらえるようにしたい。
- ・南永田団地は、良い意味で閉鎖的で時間の流れがゆったりしており、安心して子育てできる環境である。それを維持していきたい。

魅力発信

- ・若い人に団地の魅力を伝えつつ、URの地域福祉拠点の位置づけと関連させて、「安心して老後がおくれる団地」としてPRしていきたい。
- ・この団地には、診療所、薬局、スーパーマーケット、コインランドリー、塾など日常生活に必要なモノがそろっており、共働きにも便利な団地である。「この団地は良いよ」ということを呼びかけたい。
- ・様々な活動があることを知らない住民が多い。もっと宣伝していきたい。
- ・団地の魅力等を団地内外に発信していくことが重要。（1街区には自治会広報誌があるが、そのほかの方法について、体制・費用などを含め考える必要がある）。

活動を将来まで続けていく

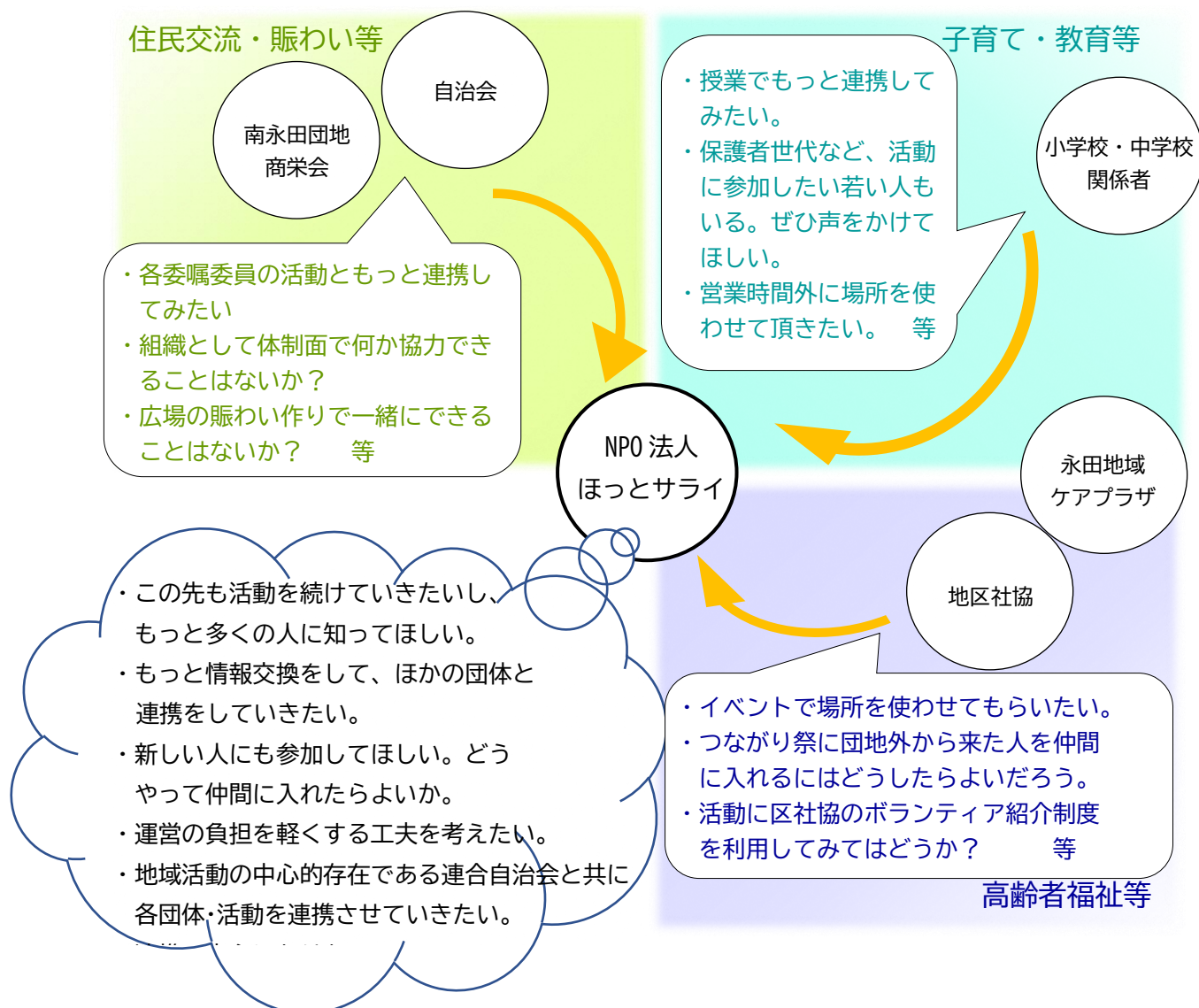
- ・行事等をきっかけに新しい担い手を見つけたい。そのため、同じ活動でも徹底して継続するのが重要。
- ・どの活動も若い層へのバトンタッチが難しくなっている。若い人や新しいグループがでてきたら、それを応援し、徐々に引き継いでいけると良い。
- ・地域で活動したい若い人は実は結構いると思う。既存のグループが若い人、新しい人を受け入れる体制を作ることが大事なのではないか。
- ・区社協ボランティアセンターを活用してみてもどうか？
- ・各団体で得意なことが違うので、相談して、協力したり分担したりできれば負担は減ると思う。
- ・このビジョンの想いを共有して、次の担い手になってくれる人が大勢現れることを期待している。
- ・団体間の連携を密にすることが重要である。例えば、連合自治会を中心とした情報交換など、連携の仕組みができれば、各団体で行っている見守り等の取組をより効果的に行えるようになると思う。

NPO法人ほっとサライと各団体の今後の連携のアイデア

各団体が活動を行っている南永田団地（永田みなみ台地区）において、多世代交流の促進、子どもの健全育成、高齢者の孤立防止・見守り等、各テーマを横断して幅広く活動を行っている NPO 法人ほっとサライは大変重要な存在です。

各団体に行ったヒアリングでは、NPO 法人ほっとサライの重要性や、活動への感謝・応援の声が多く挙がるとともに、各団体との連携についての期待も多く寄せられました。また、NPO 法人ほっとサライからは、今後も、運営を工夫して、団地内の交流拠点としての機能をより高めていきたいとの想いを伺いました。そこで、今後の活動の参考に、NPO 法人ほっとサライの運営に関する想いと、各団体から寄せられた期待について、整理しました。

< N P O 法人ほっとサライと各団体の今後の連携のアイデア >



南永田団地（永田みなみ台地区）の
「これまで」と「これから」

策 定/ 令和4年3月

発 行/ 南永田団地再生ビジョン検討会

事務局/ 横浜市建築局、横浜市南区役所

横浜市住宅供給公社